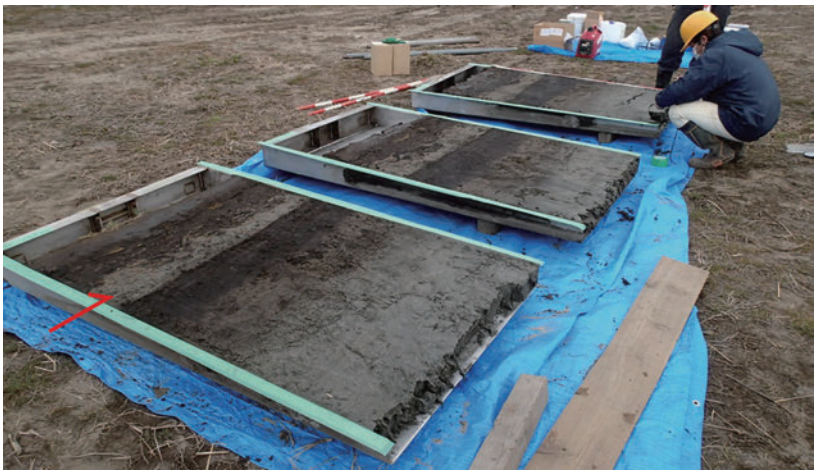
津波堆積物のはぎ取り標本の作製

＜澤井祐紀[1) 2)]＞

宮城県仙台市において，津波堆積物を採取・観察するための地質調査を行いました．この際，作業の一環として堆積物のはぎ取り標本を作製しました．大型の標本は，産業技術総合研究所の地質標本館に展示しています．また，小中高校生や一般の方々に対して津波堆積物に関する地質調査の理解を深めていただくため，比較的小型の標本を全国に貸し出しています．ここでは，はぎ取り標本作製の様子を紹介します．研究の背景などの詳しい解説は，本号のp. 53–59に掲載されています．



第１図　地層抜き取り装置によって採取された堆積物試料．赤色の矢印で示された層準が西暦 869 年貞観地震による津波堆積物．これらの試料の表面をはぎ取り，展示用標本を作製する．地層抜き取り装置による試料の採取方法については，本号の記事を参照．

第２図　はぎ取り標本を作製するために接着剤を塗布している様子．

第３図　地層からはぎ取った標本を並べている様子．大きくはぎ取った標本は短冊状に切断し，展示用および貸し出し用の標本に加工した．写真の手前が地層の上位．

第４図　表面に触れることによる劣化を防ぐようにした．また，様々な大きさの標本を作製し，小型のもの（左の標本）は，全国の教育機関において気軽に授業等で使用できるような大きさにした．自立するタイプの標本は，主に産総研による外部出展で使用する予定である（中央と右の標本）．

1）産総研 活断層・地震研究センター
2）産総研 地質標本館

SAWAI Yuki (2014) Preparing peel of the tsunami deposit.